

成果指標				
成果指標	不法投棄件数(件)			
指標設定の考え方	環境保全に向けた意識向上のバロメーターとして設定。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	15	13	0	0
実績	18	10	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	事業も10年以上実施されており、現在では、大多数の市民が環境意識を持っている。地域のボランティア清掃も活発であり、「クリーン伊予運動」の日だけ特別であるという意義も薄れてきていると思われる。地域主体で、能動的な取組をできる環境づくりを推進していくとともに、行政が関与していく部分を減らしていけるように努力したい。また、子供だけでなく、普段働いている方々(特に父親)に、効果的な環境教育を実施し、地域の清掃に目を向けてもらうようにしていきたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	市民主体による一斉清掃の実施は、参加者自らが循環型社会の一員であるとの意識や、参加者同士の交流を通じて環境美化意識の養成に一定の効果を発揮していると考えられる。今後も継続的に事業を実施し、日ごろ地域活動への関わりが薄い方への浸透を図り、参加者増につなげていきたい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題